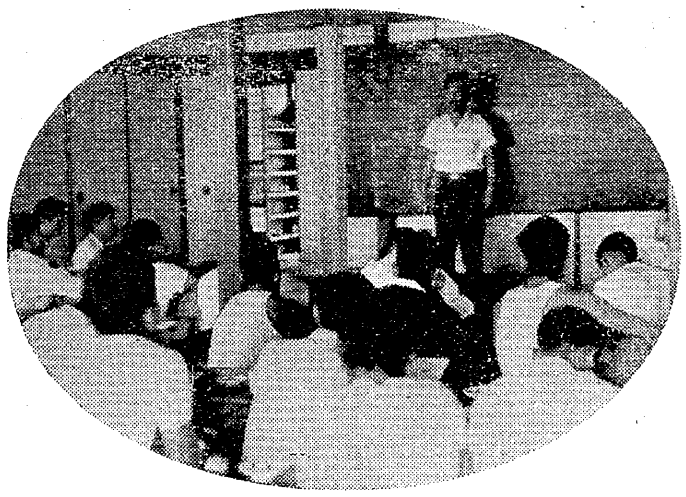
学習に励む行動隊
理論をつけ組合のバックボーンに

秋！読書の秋とも昔からいわれてきた。けだし四季を通じて心身ともに爽快な気候でもあろう。こういうときいま各職場、地域では学習活動が急テンポに高まってきているが、三川支部行動隊では去る八日行動隊結成後の初の第一回集会を開いたが、この席へ本所塚本支部長を招いて労働講座を行い学習活動にいそしんだが、以下各支部の行動隊学習をのぞいてみよう。



座講働勞の初の会集所で行われた

三川支部行動隊（九〇名）では八日第一回集会を午前九時五十分から三川集会所で開催した。報告、議事を終り、労働講座を予定。組合員のなかでもバックボーンとなる行動隊だけに、このさいしっかりと理論を身につけて、組合活動の中核にならなければならぬということで学習活動に励むことになった。

この日は塚本本所支部長を招いして講座を受もつてもらい「組織について」というテーマのもとに組合の具体例を示して何故行動隊のような組合運動をしなければならないのか説明、学習を行った。こんご集会は毎月一回必ず開催することが決定、それにあわせて学習も併行することとなった。

【宮浦】ここの行動隊は九十五名労働講座を月一回もち研さんに励んでいる。

毎週月曜日午後五時から七時ごろまでの二時間を組合二階で行つており、一番、二番、三番の各方と常一番の四班にわけていて、毎週行っているから感謝は月一回となる。現在のところ講師として支部長、教宣部長など執行部のスタッフが当つている。

【港務】十、二十、三十の各日に行つている。隊員七十八名。講座は港友クラブで各方ごとに午後二時半から約二時間学習しているが、ここでも業務以外の人に出席を呼びかけ、この人たちが毎回七割から八割出席して成果を挙げている。最近のテーマは主として経済学をやつており、講師として

【四山】隊員七十八名。現在各方毎に毎週一番方より組合二階で午後三時から約二時間行つている最近のテーマとしてはまず身近かな問題から取組むという方針で、組合運動にたいする問題や労協問題など行動隊員として知つておかなければならぬ問題に取組んでいる。講師として執行部より深草教宣部長を招いている。ここの悩みは各方の人員が凸凹で、例えばイ方六名、ハ方二十四名のようである。このため執行部としては講座には業務以外の全員参加を呼びかけている。

【本所】隊員八十名。毎月二十日に「組織強化」に関するテーマで支部長を講師として研究しあつている。

学習時間は二時間ないし三時間が当てられている。

革商連と青空会議
今後の連繋を話合う

海岸近くの四山支部大島地域の第三分会では、八月三十日の午後七時から広場ではタベの涼風にお偏の暑さを忘れて、分会員並に主婦と革商連代表並に四山厚生市場の代表を囲んで青空会議が開催された。

毎日買物をしている主婦の立場からの発言はサービスや品質、値段について革商連加盟店と一般商店との格差があるところを商店名とその実例をあげて率直な批判がなされた。とくに四山厚生市場の食品取扱の不衛生な点が指摘された代表者からはこの主婦の意見に対して、直ちに悪いところは改めて最善の努力をすると約束された。またチケットの現金買いは商店によつては「現金」でなら値引きされるが「チケット」を出せば値引きも取り消す店がある。労組と革商連との協定はどうなつているかの質問に対しては、革商連の坪井会長より革商連は正札励行である一部の指定店がそのようなことでは残念である。もしそういう店があつた場合はドシドシ事務局の方にご連絡願いたい。革商連は直ちに勧告をし強固な対策をすると回答があつた。

革商連とひざつき合せての青空会議は三鉱労組の労商提携、主婦会の買物は革商連からという活動方針を地域における実践活動であり相互の理解を深める具体性のある話し合いの場であつた。

諸種の要望や意見が商店に対しては耳の痛い厳烈な発言でもあつたろうが、これは革商連を愛するための愛の鞭であり、革商連育成の慈愛である。今後はより一層の連繋を深めて行きましようと結論が出されて意義ある青空会議を終つた。（三分会発）

楽しく敬老會
岩津分会が瀬高で

十五日の老人の日に先立ち三作支部岩津主婦会では、去る六日瀬高駅前の瀬高温泉で午前十時から地域の老人十数名を招いて楽しい老人の慰安敬老会を催した。

主婦会の人たちの心からなる慰めに、今日は老人たちも昔話に花を咲かせ、年令も忘れて大はしやぎ執行部からは竹原支部長が出席、お祝の挨拶をすれば、老いた顔に満面の笑を浮かべてうれしそうだ

つた。

料理に舌つつみをうち、ゆつくりと温泉に浸つて心ゆくまでにこの最良の日を楽しんで帰路についた

三川で三番目
五分会で職場新聞

地域機関紙の誕生が相ついで起つているとき、こんど新しく三川支部でも職場新聞「ごぶんかい」が発行された。

三川での職場新聞は「電友」（電気分会）「四十分会」（保安、発破関係）につぐ三番目の職場新聞で現場は本層乙方、在籍二二一名である。

こんご定期的に刊行されることになつているが、既に発行された新聞をみると、タブロイド版ニページのガリ刷りである。

編集内容もさすが職場新聞にふさわしく八月採掘の晃取図や目標、実績、生産会議報告、要望事項などが主軸になり、アンケート、レクレーションなど非常にバラエティに富んだ編集に苦心が払われており、こんごの発展が期待されるただ、ガリ切りと編集の整理にもう一段の工夫が払われるならさらに立派な職場新聞になるものと思われる。

子供とともに
指導に尽す林田さん

子供たちと一緒に学習にスポーツにとともに楽しみ、夏休みには島原まで一緒に連れて行くなど、いまでは子供たちに無くてはならない「おじさん」と慕われている人がいる。四山社宅の林田幸伊十さん（採炭）だ。

身をもつて子供たちの指導につくしている姿は、いまでは地域の分会員、主婦たちの間からも尊敬をあつめ、安心して子供が託せられて嬉しいと喜ぶ主婦もいるほどである。

福三分会の児童部長を数年つとめ名児童部長ぶりを発揮している。当の林田さんは

成長期の少年たちといると伸び伸びと育つ彼等の影響でか、何時までも若い気持です。私を皆さんが賞めているそうですが、皆さんがほんとによく協力されるからです。皆さんに返つて感謝しています。

と謙遜している

今年の夏休みには、自分の休みをつぶして子供たちを島原の加津佐にキャンプに連れていつた。三里校の生徒もこれには参加しているそして向うで野球などして大いに楽しみ、子供たちに大きな夢を実現させてくれた。

今日も林田さんは少年たちを相手に野球の指導に余念がない。林田さんと一緒にいるときの子供たちはいかにも嬉しそうである。

感心な高校生
新聞手に追駈ける

太陽族、ドライ青少年などと青少年の無軌道ぶりが毎日のように新聞紙上で叫ばれているが、なかなかどうしてこんなに真面目な青少年もいるもんですねエと、港務支部教宣部で感心していることがある。

話は同支部の教宣部員片山さんが炭労新聞と「みいけ」を配布していたときのこと。ご承知のように港務所は現場があちらこちらと散在しているため、新聞も教宣部が自転車に積んで配布する。片山さんも万田の配布を終え、宮浦へ向う途中、船津踏切から六〇〇米ばかり行つたところで後に積んでいた新聞がズレ落ちた。本人は全然判らずそのままペダルを踏んでいたら、後から呼声が聞えるので停車したら、高校生が息せき切つて追つかけてきた。みると新聞を手に持つている。感激して名前を聞くがどうしても答えなかつたという。近ごろ聞く嬉しい話である。

敬老会
四山支部では恒例の敬老会を今年も支部一本の行事として来る二十二、三日立願寺で行う予定。

体育シーズンに入る
秋晴れの下各地で展開される敢闘絵巻

中天高く登み切つた秋の青空は快い緊張を人間に誘うようだ。台風、雨とグズついた天気も去る八日にはカラリと晴れわたり日頃の憂うつを払いのけるような上天気になり、待ちかまえていたように各地域ではソフトボール、運動会など、この日は全く運動オンパレードの観を呈した。以下各地で繰広げられた行事を紹介しよう。

港務・王座揺がず
接戦の三鉱バレー大会

九月八日、晴　本社内の二つのバレーコートで午前九時より試合開始、延々七時間半の熱戦が展開された。一位港務、二位本所この本所チームについては一回戦で港務チームと組み問題なく鼻事に負けたのだが、敗者復活戦で奮闘。四山、三作チームを接戦の結果やぶり、勝者チームの仲間に入り、準決勝戦で三川チームと対戦、三セットゲームをやり三川チームをしりぞけ、優勝戦へと駒を進めて再度港務チームと顔を合せることになつた。しかし、港務チームは順当に勝ち進み三回目本所チームは前述した通りで五回目の試合二回戦の屈辱をバンカイしようと最後の力をしぼり出し戦つたが、奮闘空しく二十一対八、二十一対十三と二セットであえなく破れた。この全試合中とくに力のこもつた接戦で最後の一ポイントまで予断を許さなかつた戦いは、敗者復活戦での勝者チームの仲間に入るか否かの本所チーム対三作チームの試合であつた。一セットを三作チームが二十一対十八で戦い取れば二セットでは逆に本所チームが二十一対十八で戦い取り、三セットでは互いに抜きつ抜かれつ遂に二十対二十となり、二ポイントをどちらが先に取るかで勝敗は決するという試合を繰り広げた地の利を得た本所チームにがい歌はあがつた。どちらの選手も汗と埃にまみれ白いパンツも見る影もなく黒くなり、見物していた私達も試合が終つた時はホツト肩の荷がおりるというか力の抜けたような気がした。優勝戦では伝統を誇る港務チームが自信と確信を持つた堂々たる配陣で、やはり港務チームだなという感じを受けた。午後四時三十分無事終了優勝旗は

港務と宮浦戦（手前宮浦）

再度港務チームの手に…。

早くも運動会
青空下楽しい団欒

日中は残暑がきびしいとはいえ秋の気配は日に日に濃くなり、例年より一足先にやつてきている。運動会シーズンのトツプを切つて早くも三作支部銀水社宅では八日（日）新設グラウンドで恒例の秋季大運動会を地域分会、主婦会共催で行つた。

前日の小雨模様で気がかりされていた天気も秋晴れの晴天となり、午前八時開会式をあげスタートを切つた。

新設グラウンドは高台にあり大牟田の市街が展望される見晴しのよいところだ。

まず、小中学生競走からはじまりついで洗面器を頭上に乗せて落さないように走る洗面器リレー。組合員、主婦たちの深刻そうな表情

に見物はワツと湧き立つ。

働く仲間の運動会だ。老人たちも参加させようという主催者側の温い気持からか、五十五才以上の年寄たちも参加が計画されていて、華運競走に出場。この日ばかりは老幼男女楽しいスポーツの一日を過した。

各地區で熱戦
八日のソフトボール

八日、秋晴れの日曜日とあつてスポーツには上乗の日和。

この日四山、三作の地域分会対抗のソフトボール大会を筆頭に各支部地域ではいたるところに、撮寄りのグラウンドで目白おしのソフトボール試合を催した。ソフトボールにとつては黄金の日であつた。四山支部は四山グラウンドで地域対抗のふたをあけたが、多チームのため、到底一日では優勝戦まで行うことは不可能とあつて、十五、二十二日の各日曜とともに試合を続行することになつた。

優勝戦は二十二日に行われる予定となつている。

三作では三作グラウンドを三分して三試合を開始、別に渡瀬地区のためには渡瀬のグラウンドで開始した。

宮浦支部では明治校区分会、大砂通松、大正校区、長溝、天道などの各分会で班対抗の試合を行い、選手、応援一体となつて残暑のきびしい秋の日に照らされながら楽しい一日を過した。

【写真】（中）洗面器を頭上にオズオズと走る主婦たち
（下）主婦も参加してのソフトボール